

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 安里 英治 | 所 属 | 理学部 海洋自然科学科 化学 | 職 名 | 教授 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成28年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成28年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生支援 | 0.40 | 1)「化学II」及び本年度担当の「化学入門I」でリフレクションシート制を導入し、出席点呼の時間削減と学生の理解度の把握に勤め、教育効果の改善につなげる。 2)研究室単位で「雑誌会」を開催し、最近の研究分野の動向を学生とともに学ぶことで研究室所属学生の資質向上につとめる。 3)単位取得率の低い「無機化学II」では、小テスト制を導入して学生の理解と単位取得率向上につとめる。 4)研究室所属学生(B4:2名、M1:1名)に対し、県内外企業等に関する情報提供を続け、就活意識を高めるとともに就職の実現を手助けする。 | | 0.40 | 1)「化学II」でリフレクションシート制を導入した結果、出席点呼の時間削減と学生の理解度の把握につながった。来年度も継続する予定。「化学入門I」は担当していない。 2)高良研究室と合同で「雑誌会」を開催した。それを通じて研究室所属学生に論文を読む習慣がついたと判断している。 3)「無機化学I」「無機化学II」で小テスト制を導入した。授業評価アンケートでは小テスト制を支持する意見があり、概ね支持されていると判断する。 4)研究室所属学生(B4:2名)の内、1名は公務員(沖縄県)として採用が決定。1名は本人の意思により6月から休学。修士1年(1名)には、機会あるごとに先輩の体験談などを紹介して就職の意識を高めるよう努めた。 | |
| 研究 | 0.30 | 1)佐賀大、山形大との共同研究、さらに北九州高専との共同研究を推進し、国際誌へ1報以上投稿する。 2)錯体化学学会会員として、例えばポスター賞審査員等の役割を通して錯体化学討論会」運営に協力する。 | | 0.30 | 1)立教大との共同研究が1報、国際誌に掲載された。 2)山形大学との共同研究の成果を「錯体化学学会討論会」で発表したが、審査員などの事前依頼はなかったため、「討論会」の運営協力を果たせなかった。 | |
| 社会 貢献 | 0.15 | 1)日本化学会の公式イベントである「化学への招待」を、実行委員長として企画運営に務める。 2)県内高校へ出向いて化学系の紹介を行うなど、化学系広報活動を通して教育研究活動に関する情報発信に務める。 | | 0.15 | 1)日本化学会の公式イベント「化学への招待」を9月に開催した。会は盛況で、実行委員長としての職責を全うした。 2)2月現在、予定されている高校訪問はないが、高校側からの依頼があれば、速やかに対応したい。 | |
| 管理 運営 | 0.15 | 1)全学委員として「全学教員養成運営委員」「生涯学習教育研究センター運営委員」の職責を全うする。 2)理学部委員とし教育委員会委員の職責を全うする。 3)化学系委員として「教務委員会」「評価将来計画委員会」「広報委員会」の委員職責を全うする。 | | 0.15 | 1)全学委員として「全学教員養成運営委員」の職責を全うした。「生涯学習教育研究センター運営委員」は任期を終え、活動を行っていない。 2)理学部委員とし教育委員会委員の職責を全うした。 3)化学系委員として「教務委員会」「評価将来計画委員会」「広報委員会」の委員職責を全うした。 | |
| | 0.00 | | | 0.00 | | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--------------------------------------|--|---------------------------------------|
| 名 前 | | 漢那 洋子 | 所 属 | 理学部 海洋自然科学科 化学系 | 職 名 | 准教授 |
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成28年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成28年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生支援 | 0.30 | ●共通教育等科目「化学Ⅰ」、専門科目「基礎ゼミⅠ」「物理化学Ⅳ」「物理化学実験」「アドバンスト物理化学」「科学方法論」、および大学院科目「分子光化学特論」を従来通り、担当する。 ●2年次指導教員として修学指導や学生生活支援等を行う。 | | 0.25 | ●共通教育等科目「化学Ⅰ」、専門科目「基礎ゼミⅠ」「物理化学Ⅳ」「物理化学実験」「アドバンスト物理化学」および「科学方法論」を例年通り、担当した。 ●2年次指導教員として修学指導や学生生活支援および本学の短期留学制度へ応募する際の支援等を行った。 | |
| 研究 | 0.40 | ●光化学を題材にした科学教育の研究について論文を執筆する。●たんぱく質と結合した分子の光反応について、論文を執筆する。●イオン液体を用いた溶媒系における光化学研究の成果について論文を執筆する。●国際沖縄研究所の併任教員として、「ジェンダーと自然科学」のテーマに取り組む。●光化学、および科学(化学)教育に関する、新しい研究テーマを開拓する。 | | 0.25 | ●光化学を題材にした科学教育の研究について論文執筆中(作成した原稿の見直しと投稿先の検討中)。●たんぱく質と結合した分子の光反応について共同研究先との情報・意見交換等を実施した。論文執筆の準備中。●イオン液体を用いた溶媒系における光化学研究の成果について論文執筆の準備中。●国際沖縄研究所の併任教員として、「ジェンダーと自然科学」のテーマについて新しい観点やアプローチの検討を始めた。●光化学および科学(化学)教育に関する新しい研究テーマの開拓に取り組み、具体的な研究の進め方の検討を始めた。●サイエンスコミュニケーション研究に着手すべく、リサーチプロポーザル作成を行った。●産学官金共同研究スタートアップ支援事業「ちゅら島サイエンスプロジェクト」実現に向けたスタートアップ支援事業に参加、化学プログラム開発に取り組んだ。●日本生物物理学会九州支部長の依頼により、邦文誌「生物物理」に研究紹介を執筆した。 | |
| 社会 貢献 | 0.15 | ●今年度の「教員免許状更新講習」において、本学提供の選択領域科目として、1講座を担当する。●公益法人日本化学会の代表正会員を務める。●本学の公開講座において1講座を提供する。●共通教育科目「化学Ⅰ」を公開授業として提供する。 | | 0.30 | ●「教員免許状更新講習」の選択科目「光と物質—色と化学変化—」(石垣島)を開講した。●日本化学会の代表正会員として会員増強や広報活動等に努めた。●本学の公開講座として「理系女子・理系男子の世界—進路選択とキャリア形成—」を開講した。●担当する共通教育科目「化学Ⅰ」を公開授業として提供、生涯教育への寄与の一環として一般市民を受講者として受け入れて講義を行った。●オープンキャンパスのジェンダー協働推進室企画「女性研究者による理系女子への自然科学分野の紹介」において、光化学を中心とした演示実験と自然科学全般の紹介、研究の醍醐味、および自然科学分野における男女共同参画の意義についての講演を行った。●日本化学会九州支部化学教育協議会主催のイベントとして本学で開催された「化学への招待」において、中学生向けに光化学の体験実験を提供・実施した。●沖縄県内の高校生2名をインターンシップ生として研究室に受け入れ指導した。●本学の高大連携の一環として出前講座(光化学の世界)を沖縄県立宮古高校の依頼で実施した。●第39回沖縄青少年科学作品展の審査員を依頼され、審査と講評作成等を行なった。●北谷町より第8期北谷町男女共同参画会議委員(副委員長)を委嘱され、第二次北谷町男女共同参画推進計画の中間見直しの審議に参加した。 | |
| 管理 運営 | 0.15 | 【全学】●全学学士教育プログラム委員(化学系代表)を務める。●総合科目企画小委員会委員を務める。●ジェンダー協働推進室室員としての仕事を行う。●戦略的教育支援等推進経費WG委員を務める。【理学部】●理学部教育委員会委員を務める。【化学系】●化学系施設・安衛法対策委員としての業務を行う。●その他の学内委員を務める。 | | 0.20 | 【全学】●全学学士教育プログラム委員(化学系代表)としてプログラム内の意見聴取や関連書類等の作成を行った。●総合科目企画小委員会委員として科目の改廃等の審議に参加した。●ジェンダー協働推進室室員(理学部代表)として本学の男女共同参画に関する施策の審議等の仕事を行った。●戦略的教育支援等推進経費WG委員を務め、本経費に関する仕事を行った。【理学部】●理学部教育委員会委員として主に教務関連の仕事を行った。【化学系】●化学系施設・安衛法対策委員を務めた。●その他の学内委員を務めた。 | |
| | 0.00 | | | 0.00 | | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 | | <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 |

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|---|--|---|--|
| 名 前 | 石田 哲夫 | | 所 属 | 理学部 海洋自然科学科 | |
| | | | 職 名 | 教授 | |
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成28年度 年度目標設定 | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成28年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生支援 | 0.40 | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎ゼミでは、新1年生が大学生活をスムーズにスタートできるように多面的にサポートし、同時に実験データの統計的側面の基礎習得させる。 ・生化学と有機化学IVの2つの講義で、生体内の化学反応についての基礎知識とそれらを研究する方法を学生に習得させる。 ・化学1では、工学部の学生が一般化学の基礎を習得し活用できるように、講義する内容の順序や講義中に演習タイムを入れるなど工夫する。 ・4年生のセミナーと卒業研究では、学生が生化学研究に必要な基礎知識・実験技術・英語論文を読む力・発表する力を養い、卒業までに学会発表できるレベルまで研究を展開できるように指導する。 ・博士前期課程1年の特別演習と特別研究では、自律的に研究を構想し展開できる力を学生が習得できるように指導し、学会発表や論文発表を目標に研究を進める。 ・博士前期課程2年の特別演習と特別研究では、研究成果を英語論文としてまとめる能力を取得できるように指導する。 ・大学院前期課程学生対象の酵素反応機構の講義では、一般有機化学反応の触媒機構と酵素の触媒反応機構を対比しながら系統的な講義を行い、学生に酵素反応の基礎を習得させる。 | 0.40 | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎ゼミでは、統計入門のテキストを人数分準備し、実験データを取り扱う基礎づくりをした。 ・3人の卒研の学生に対して、毎週一回セミナーを行い、適時英文論文を紹介して基礎知識の習得と論文を読む力と発表する力を養成した。各自に独立した研究テーマを設定し、個別に指導した。一人は、大学院前期課程に進学する予定である。 ・化学1では、まず、化学量論など高等学校での学習を深め運用できるようにし、講義の後半で量子化学的な物質の見方を説明した。講義中に小テストによる演習と回答を行った。 ・生化学と有機化学IVの2つの講義を関連させて行い、生体内の化学反応についての基礎知識とそれらを研究する方法を学生に習得させた。 ・博士課程前期の学生2人に個別の研究テーマを課し、それぞれ学会発表を行った。 ・大学院前期課程学生対象の酵素反応機構の講義では、一般有機化学反応の触媒機構と酵素の触媒反応機構を対比しながら系統的な講義を行い、学生に酵素反応の基礎を習得させた。 | |
| 研究 | 0.50 | <ul style="list-style-type: none"> ・少なくとも5つ以上の英議論文の投稿、受理・掲載する。 ・5つ以上の学会発表を行う。 ・研究資金を外部から獲得するために、応募条件が合う公募には積極的に応募し、1件以上の資金獲得を目指す。 | 0.50 | <ul style="list-style-type: none"> ・Springer社のAdvanced Methods in Structural Biology (12章Frontal gel filtration, pp 199-226 を執筆)が出版された。 ・共著論文2件(Molecular Cell (2016), 61, 187-198, Hypertension (2016), in press)が受理され、出版された。 ・3件の学会発表を行った。 ・科研費(基盤研究C)と住友財団の環境研究助成に応募したが、不採択。 | |
| 社会貢献 | 0.00 | | 0.00 | | |
| 管理運営 | 0.10 | <ul style="list-style-type: none"> ・代議員としての職務を真摯に果たす。 ・化学系内の副主任・4年次指導教員などの職務に真摯に取り組む。 | 0.10 | <ul style="list-style-type: none"> ・代議員としての職務を真摯に果たした。 ・化学系内の副主任・4年次指導教員などの職務に真摯に取り組んだ。 | |
| | 0.00 | | 0.00 | | |
| 計 | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 棚原 朗 | 所 属 | | 理学部海洋自然科学科化学系 | 職 名 | | 教授 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|--|---|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成28年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成28年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.40 | 講義「機器分析」へ技術職員による教育支援(機器操作, メンテナンス等の現場体験に基づく講義) 「機器分析」「放射化学」: 学生の授業評価をHPで公開しそれに基づく意見等を授業へ反映 学部学生へ大学院進学を啓蒙 学部学生へ国家資格等の取得をPR及び支援 | | | 0.40 | 講義「機器分析」へ技術職員(3名2コマ)の教育支援をもらった。 学生からの授業評価を個人のHPで公開した。 研究室内の学生が甲種危険物取扱者を取得 「大学案内」に執筆した。 | | |
| 研究 | 0.30 | 学会誌への論文投稿 所属系以外との共同研究 受託試験のPRを積極的に行い外部資金の獲得をめざす。 | | | 0.25 | 東北大学との研究支援(福島県在住小児の乳歯の放射線測定) 琉球大生物系学生の研究支援(放射能測定)を行った。 受託試験(放射能測定)を獲得した(3件)。 | | |
| 社会 貢献 | 0.05 | 沖縄県廃棄物処理施設生活環境影響評価専門委員 福島原発事故に伴う放射能に関する外部からの相談に対応 県内高等学校へ化学系の紹介を行う。 | | | 0.10 | 沖縄県廃棄物処理施設生活環境影響評価専門委員 消防学校で「消防理化学・実験」「危険物」の講義担当(前期6時間・後期5時間) | | |
| 管理 運営 | 0.25 | 化学系の管理運営に参画 RI施設の放射線取扱主任者として従事 機器分析支援センターで機器の維持管理および機器講習会を開催 | | | 0.25 | 広報委員, 施設整備委員を務めた。 RI施設の放射線取扱主任者として従事した。 研究基盤センターの放射線測定器の維持管理, 機器講習会を行った。 | | |
| | 0.00 | | | | 0.00 | | | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | | |

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 中川 鉄水 | 所 属 | | 理学部 海洋自然科学科化学系 | 職 名 | | 助教 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|--|---|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成28年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成28年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育・ 学生支援 | 0.20 | 昨年度まで行っていた英語セミナーを廃止し、希望者のみに小規模な英語教育を行う。化学実験では実験ノートづくりを重点的に指導する。情報科学演習では、受講者数が多いので昨年まで行っていた個別指導は難しいため、効率的な授業方法を確立する。基礎ゼミは、今年は多くの実験を取り入れ、学生の実験技術向上を図る。無機化学実験はテキストと実験方法の改良を行い、より学習効果を高めたものにする。 | | | 0.40 | 希望者のみの英語セミナーを週1回行った。教育に関しては3年次後期向けにプレゼミ的な新授業の立ち上げに貢献した。基礎ゼミでは、実験を多く取り入れた一方で施設・センターの見学時間が取れなかったことが課題であったので、次年度の課題としたい。情報科学演習は受講者数が倍増したが、個別指導は比較的できたので良かった。大学院授業は外国人が受講したため英語での授業を行ったが、その準備が不十分な時もあったので次年度は改善したい。 | | |
| 研究 | 0.50 | 獲得した科研費の年次目標以上の成果を出す。沖縄県科学技術振興センターの助成金および学内の研究経費を獲得し、基礎・応用での研究を推進する。更に企業との連携を強化し、水素関連の製品開発や実証試験等を補佐できる体制を整える。特許1報、論文最低3報掲載し、溜まっていた論文を半分以上投稿段階の形にする。また、国際会議にも出席し、これまでの成果をアピールすると共に情報収集を行い、世界へ遅れを取ら無いようにする。 | | | 0.40 | 助成金5件(科研費、鉄鋼環境基金、産学官スタートアップ支援、沖縄-ハワイ交流事業、東北大金研共同研究)獲得した。特許2件を申請準備段階に入り、もう1件も申請する予定である。論文は2件報告し、更に論文になる結果が3件出たため、次年度は倍以上投稿したい。国際会議も2件発表し、充実した1年だった。 | | |
| 社会 貢献 | 0.20 | 公開講座を最低3回行い、一般の方々にも水素に関する正しい知識を持ってもらい、来るべき水素社会への協力者が増えるように努力する。書道部顧問として書道展に学生と共に出席し、地域貢献する。所属している卓球チーム琉球アスティーダでの活動を通じ、琉球大学をアピールする。 | | | 0.10 | 公開講座を3回(うち1回は離島)行った。久米島高校へ高校訪問を行った。沖縄県公衆衛生協会の主催のもと、水素エネルギーに関するセミナーを3回開催した。書道展では学生と共に出品し、琉球大学書道部をアピールした。卓球では琉球アスティーダ主催の講習会や試合を通して学生のリクルート活動を行った。 | | |
| 管理 運営 | 0.05 | 基本的に各種委員会に貢献する。発明審査委員会では案件があればしっかり審査すると共に、特許について再度勉強し直す。化学系の書記は、滞りなく行い、次の週までには議事録を必ず作成する。将来計画委員会では、中期計画の内容を理解し、大学のためになることを考える。 | | | 0.05 | 発明審査委員会では2度欠席はあったものの概ね貢献できた。化学系会議の書記は出張が多く代役を立てることが多かったことは反省点である。将来計画委員会はほとんど活動しなかったが、個人的に情報収集を行った。また、年度途中で新たに加入した職員研修プログラム検討委員会では活発に意見を述べた。 | | |
| その他 | 0.05 | 他学部との交流を深める。色々な教員の研究内容を知り、将来的な連携や個人的なスキルを増やす。また、自己投資も十分行い、教育・研究・管理運営に役立つ知識と技術を得る。今年の11月に水素関連の研究会を開催し、沖縄に研究者を呼んで講演会も開いてもらう。 | | | 0.05 | 教育学部、工学部の教員をはじめ、多くの教員と交流ができた。研究会も9月に琉球大で開催し、他大学の教員・学生に琉球大学をアピールした。自己研鑽として、新たにメキュー先生が主催する英会話サークルや大学主催の英語論文セミナーに参加し、英語力を向上させた。寄付活動も行い、2件寄附を受けた。 | | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | | |

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 田中 淳一 | 所 属 | | 理学部 海洋自然科学科 | 職 名 | | 教授 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|--|--|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成28年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成28年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.40 | 教育では、専門科目(海洋有機化学、同実験、有機化学II)、共通科目(化学入門II)、ならびに卒業研究(特別研究)、セミナー(特別演習)、基礎ゼミ等で学部生・大学院生の指導を行う。それぞれの授業内容については、昨年度のものに新しい情報を取り込み改善に努力する。当研究室の4年次学生の進学・就職相談にのる。博士後期課程の院生には、論文を早めに投稿させるとともに、学位の取得を促す。 | | | 0.40 | 専門および共通科目の担当授業については、当初の予定通り新しい情報を取り込みながら、改善して行っている。化学入門IIでは、webclassを活用して学生に授業内容を提供している。当研究室の学生については、4年次は2名とも本学で進学予定である。1名の修士修了予定の院生には2月の発表に間にあうように指導している。3名の博士後期課程の院生については、そのうち2名が9月修了できるように投稿論文等を準備している。 | | |
| 研究 | 0.40 | 外部資金の科研費等で海洋天然物に関連する単独および学内外との研究を遂行する。学内の熱生圏の教員と生物多様性に関連する共同研究を行う。また、国際誌への論文投稿、ならびに国内外の学会で成果を発表する。 | | | 0.40 | 科研費等で国内外の研究者と共同研究を行った。学内の熱生圏の研究者とも研究を継続している。国際誌へは責任著者として2報出し、共同研究者から1報出した。また、印刷中、投稿中、準備中の原稿がいくつかある。 | | |
| 社会 貢献 | 0.10 | 民間研究機関との共同研究を発展させるとともに、事業の発展に貢献できるようにする。本年度から沖縄県理科・化学教育懇談会の役員に加わることから、化学会関連の活動を手伝う。 | | | 0.10 | 2つの民間研究機関との共同研究もそのまま継続している。沖縄県理科化学教育懇談会については、まだ要領を把握できていないが、来年度は会長なのでその準備をしている。比嘉辰雄先生メモリアルシンポジウムを開催した。 | | |
| 管理 運営 | 0.10 | 今年度は系内の留学生委員会、学部のOIMAP委員会、副学部長(国際)を担当している。MoU締結、海外の大学との交流等、留学生ならびに本学部の学生関連の件で職責を果たす。 | | | 0.10 | OISTで開催された理学部長会議やシアクアラ大学でのMoU締結に伴う随時、本学での中国文化大学とのMoU締結やUBB(バンカ大学)からの訪問への対応、国際交流関連の委員会等に参加した。 | | |
| その他 | 0.00 | | | | 0.00 | 業務外の時間に理学部内の花壇の手入れをした。 | | |
| 計 | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | | |

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 堀内 敬三 | 所 属 | | 理学部海洋自然科学科 | 職 名 | | 教授 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|--------------------------------------|---|---------------------------------------|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成28年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成28年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.45 | <ul style="list-style-type: none"> ・「化学Ⅱ」の指定学科が変更になったので内容を変更する。 ・「セミナーⅠ・Ⅱ」の内容を整理充実させ、公開セミナーとする。 ・大学院講義「X線構造解析特論」、「磁気共鳴特論」の内容を検討し、より分かり易い内容にする。 ・卒業研究担当学生の進路指導を行う。 | | | 0.50 | <ul style="list-style-type: none"> ・「化学Ⅱ」の内容を修正・変更した。 ・「セミナーⅠ・Ⅱ」の内容を改訂した。公開セミナーとし、他の研究室の卒業生が受講した。 ・大学院講義「X線構造解析特論」、「磁気共鳴特論」の内容を改訂した。 ・卒業研究担当学生2名とも就職希望で、就職が内定した。 | | |
| 研究 | 0.25 | <ul style="list-style-type: none"> ・国際誌に学術論文(二重融解、構造相転移、常磁性体のスピンドイナミクス)を投稿する。 ・学外研究者との共同研究(亜鉛、カドミウム、水銀錯体の構造相転移と分子運動)を推進する。 | | | 0.20 | <ul style="list-style-type: none"> ・現在論文を準備中で、投稿はできていない。 ・学外研究者との共同研究(亜鉛、カドミウム、水銀錯体の構造相転移と分子運動)を推進した。 | | |
| 社会 貢献 | 0.15 | <ul style="list-style-type: none"> ・一般市民を対象に公開授業(「化学Ⅱ」)を行う。 ・一般市民を対象に公開講座(「化学への招待」)を開講する。 ・県内高校への出前講座を実施する。 ・オープンキャンパスで講師を担当する。 ・教員免許状更新講習の講師を担当する。 ・日本化学会九州支部幹事を務める。 | | | 0.10 | <ul style="list-style-type: none"> ・公開授業(「化学Ⅱ」)の受講者はいなかった。 ・一般市民を対象に公開講座(「化学への招待」)を開講した。受講者は16名だった。 ・出前講座はお呼びがかからなかった。 ・オープンキャンパスで講義を二つ行った。 ・教員免許状更新講習は受講者が少なくて開講しなかった。 ・日本化学会九州支部幹事を務めた。 | | |
| 管理 運営 | 0.15 | <ul style="list-style-type: none"> ・化学系教務委員会の委員長を務める。 ・化学系1年次の指導教員を務める。 | | | 0.20 | <ul style="list-style-type: none"> ・化学系教務委員会の委員長を務める。 ・化学系1年次の指導教員を務める。 ・日韓共同理工系学部留学生事業実施委員会の理学部委員を務めた。 | | |
| | 0.00 | | | | 0.00 | | | |
| 計 | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 | | <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | |

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | James Davis REIMER | 所 属 | | 理学部 海洋自然科学科 | 職 名 | | 准教授 | |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--------------------------------------|---|---------------------------------------|--|-----|--|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成28年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成28年度 年度末自己点検結果 | | | | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.30 | 共通教育科目(生物学実験など)及び学部専門科目(サンゴ礁多様性保全学)を担当する。大学院科目(English Manuscript Preparation、Advanced Invertebrate Biologyなど)を担当する。大学院博士後期及び修士課程の学生を指導し、研究成果を国際学術誌に投稿し、論文採択を目指す。4年次指導教員として、学生について指導や相談を行って、無事に卒業できるように支援する。 | | 0.30 | 無事に共通教育科目も専門科目も担当した。大学院科目も担当した。大学院学生の指導して、国際・国内学会や論文などの活動の指導をしました。沖縄産のスナギンチャク新種の論文も受理された、大学院性が参加している論文が4件が受理された。4年次の指導教員として、無事に卒業まで指導行った。 | | | | |
| 研究 | 0.45 | 現在投稿中・準備中の論文5件について受理を目指す。沖縄や太平洋におけるスナギンチャク類の調査や遺伝的変異について研究を進める。一連の研究を大学院博士課程の学生と共に行い、研究論文の採択を目指す。学会活動および学術雑誌の査読を通じて、関連分野の発展に貢献する。SATREPSのパラオprojectや、頭脳循環のAustraliaの研究を進める。 | | 0.45 | 今年度、論文18件が受理されました。日本産のスナギンチャク類の論文も受理された。論文の中に、大学院性が参加している論文が4件である。研究室の合計で、学会発表33件を行った。Reviewerや国際学術雑誌Associate Editorとして、50論文以上reviewとeditorとして担当した。SATREPS(パラオ)の研究や頭脳循環もスムーズに推進した。 | | | | |
| 社会 貢献 | 0.05 | パラオで行うSATREPS Projectでは、outreach活動やcapacity buildingを行う。 | | 0.05 | パラオで行うSATREPS Projectでは、パラオ短期大学の大学生と研究や指導を行って、人材育成行った。前期に、高公の教員免許授業も行った。2月に、中学生と高校生に、海洋生物学の研究者の就職や講演を行った。 | | | | |
| 管理 運営 | 0.15 | 大学院学務WGやOIMAP委員会で構成員として参加する。大学院WGでは、4月・10月の留学生orientationや、卒業発表会の広報や準備を行う。OIMAP委員会では、琉球大学の国際化を進むように活動する。 | | 0.15 | 大学院学務WGとOIMAP委員会に参加した。大学院WGで、学生便覧や時間割、卒業発表のtitleなどの英文版のチェックも行った。10月の大学院生のorientationも行った。2月の大学院卒業発表(最終試験)の担当もしています。 | | | | |
| 進路 指導 | 0.05 | 配属の学部4年次生の進路確定に努める。生物系4年次指導教員として、学生について進路指導を行う。 | | 0.05 | 配属の4年次2名の中の1名は無事に進学決定した(ライマー研で)。さらに、残りの1名が内定をもらった。大学院生(修士)1名が研究員の内々定になった(パラオで行うSATREPS Project)。 | | | | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 | | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 | | <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | | |

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|--|
| 名 前 | | 伊澤 雅子 | 所 属 | | 理学部海洋自然科学科 |
| | | | 職 名 | | 教授 |
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成28年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成28年度 年度末自己点検結果 |
| 教育・ 学生支援 | 0.30 | 博物館学芸員コースの順調な運営を行うことを目指す。共通教育、専門科目、大学院科目において例年同様の科目を担当する。博士後期課程2名、前期課程学生3名、および学位取得をめざす卒業生(留学生)の研究指導を行う。TA、RAの制度も活用して大学院生の指導に取り入れる。4年次4名について卒業研究の指導を行う。「生物塾」プログラムを実施する。また、学振特別研究員PDを受け入れ、研究指導を行う。本年度は、台湾の中国文化大学との国際サマーコース(学部生対象)を企画している。初めての試みであるので、次年度以降の継続も含めて試行・検討を行う。 | | 0.30 | 学芸員コースでは今年も22名の学生が資格を取ることができた。共通教育、専門科目、大学院科目も計画通り実施することができた。博士後期課程1名が学位論文を完成し提出した。他の学生・大学院生および学振特別研究員、留学生の指導を行い、順調に研究を進めている。台湾の中国文化大学との国際サマーコースは学部生及び大学院生の12名(TAを含む)が参加して成果をあげた。来年の台湾での実施に向けて予備調査を行った。生物塾プログラムも例年通り実施した。 |
| 研究 | 0.35 | ヤマネコ類、大東諸島の生態系、動物と植物との関係について大学院生・ポスドク研究員や系内および他大学の研究者と共同で生態学的研究を進める。イリオモテヤマネコの研究については一部環境省及び林野庁からの受託研究とする。国際的には台湾およびタイの研究者との共同研究を進める。現在投稿中の2編、投稿準備中の2編の論文について受理をめざす。沖縄生物学会、日本哺乳類学会での学会講演を行う。日本哺乳類学会理事、奨励賞選考委員、沖縄生物学会幹事として学会の運営にあたる。 | | 0.35 | イリオモテヤマネコ、ツシマヤマネコの生態及び保全、大東諸島の生態系、動物と植物の関係について、大学院生、ポスドク研究員、他の研究者と共同研究を進めた。タイ及び台湾における送粉生態についての研究を科研費の補助を得て、海外の研究者と共同で実施した。イリオモテヤマネコの研究については一部環境省及び林野庁からの受託研究を、大東諸島の生態系に関する研究は外部資金によって行った。成果を4編の論文と4件の国際学会・シンポジウムでの発表、4件の国内学会での発表によって公表した。日本哺乳類学会理事、奨励賞選考委員、沖縄生物学会幹事として学会の運営にあたった。また、日本植物学会の実行委員として全国大会を運営した。 |
| 社会貢献 | 0.15 | 環境省、林野庁、沖縄県関係の各種委員会にできる限り出席し、希少種の保護、環境保全について意見を述べる。大東諸島、西表・対馬の希少種について資料を収集し保護に関する提言を行う。IUCNネコ科専門委員として海外に情報を発信する。沖縄県のレッドリストの見直しを行い、レッドデータブックを執筆する。 | | 0.15 | 環境省、林野庁、沖縄県関係の各種委員会に出席し、ヤマネコ類をはじめとする希少種の保護、環境保全について意見を述べた。大東諸島、西表・対馬の希少種について資料を収集し保護に関する提言を行った。IUCNネコ科専門委員として海外に情報を発信した。特に本年度は沖縄県のレッドリストの見直しを行い、レッドデータブックを執筆した。また、世界自然遺産科学委員会委員として、登録に向けた議論に参加した。当初予定に加えて、小笠原諸島のオガサワラオオコウモリの保全及び外来のノネコ対策に関する委員会に出席し意見を述べた。公開講座を実施した。また、石垣島、西表島、小笠原父島・母島において一般向けの講演会を行った。 |
| 管理運営 | 0.20 | 学生指導主任として学生の指導に関する議論を行う。また、学長諮問人事委員会委員として人事に関する案件の議論を行う。系の中では学務係としての業務を行う。 | | 0.20 | 理学部学生指導主任として学生の指導に関する議論を行うとともに全学の関連の会議に出席した。また、学長諮問人事委員会委員として人事に関する案件の議論を行った。生物系の中では学務係としての業務を行った。 |
| | 0.00 | | | 0.00 | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | |

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 横田 昌嗣 | 所 属 | | 理学部 海洋自然科学科 | 職 名 | | 教授 |
|--|---------------------|--|-----|--|--|--|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成28年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成28年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.30 | 学部の植物形態解剖学, 生物学野外実習, 進化生態学実習, 基礎ゼミ, 博士前期課程の講義を行うほか, 卒論, 博士前期課程の学生の研究指導を行い, 短期留学プログラムの受講者を対象とした英語科目の講義を担当する。 | | | 0.30 | 当初の目的は達成した。その他, 琉大特色科目の「琉球の自然保護」の世話人と講義を担当し, 公開授業として一般市民にも公開した。 | | |
| 研究 | 0.30 | 現在執筆中のラン科に関する著書の原稿を完成させる。編集と執筆を担当している沖縄県の野生生物に関する啓蒙書(沖縄生物学会発行), 沖縄県版レッドデータブックの原稿作成と編集作業を進める。琉球列島の野生植物の分類に関する原著論文を執筆し, 作成できたものから順次投稿する。本年度に沖縄県で開催される日本植物学会でシンポジウムを企画し, その成果を出版物としてまとめる。 | | | 0.30 | 啓蒙書の「琉球の樹木」(文一総合出版)の監修と一部執筆を担当し, 年度内に出版された。学術論文については, 原著8報が出版された。その他については, 現在も作業中である。おおむね当初の目的は達成した。 | | |
| 社会 貢献 | 0.15 | 沖縄県自然環境保全審議会(沖縄県), 沖縄県文化財保護審議会委員(沖縄県), 沖縄県環境影響評価審査会委員(沖縄県), 環境省野生生物課などの検討会委員として専門家の立場として絶滅危惧種の保全, 自然環境や文化財の保護と活用, 世界自然遺産指定のための推薦書等の作成について意見を述べる。 | | | 0.15 | 環境省および沖縄県の絶滅危惧種, 世界自然遺産, 国内希少種, 侵略的外来種に関連する多数の委員会に出席して, 意見を述べた。竹富町自然保護審議会の会長を務め, 竹富町自然環境保護条例の改正案を作成した。宮古島市史編纂委員として, 市史の編集と原稿執筆に関わった。「沖縄に国立自然史博物館を！」実行委員会に参加し, 公開シンポジウムの開催に協力した。年度内につくば市, 鹿児島県瀬戸内町, 那覇市で一般市民を対象とした講演を5回担当した。当初の目的は達成した。 | | |
| 管理 運営 | 0.15 | 生物系内および理学部内の各種委員を務めるほか, 琉球大学キャンパス内の自然を活用した施設整備と教育プログラムの作成のため努力する。 | | | 0.15 | 当初の目的は達成した。その他, 琉球大学環境報告書の内部評価委員を勤めた。科研費申請支援アドバイザーを担当した。 | | |
| 進路 指導 | 0.10 | 研究室に所属する学部学生, 博士前期課程の学生の進路について助言を行う。 | | | 0.10 | 博士前期課程を修了予定の学生については, 修士論文の指導を行うと共に進路指導を行った。卒論生については, 卒業論文の指導を行うとともに進路指導を実施した。卒論生の一部の進路がまだ決まっていないが, 当初の目的はほぼ達成した。 | | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください。 ・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | | |

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 久保田 康裕 | 所 属 | | 理学部 | 職 名 | | 教授 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|--|---|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成28年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成28年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.25 | 院生・学生のために必要な学会発表、論文執筆を指導・支援する。大学院および学部担当科目を担当し、群集生態学や生物統計学に関する基礎知識の講義・演習などを行い、研究を行なう上での知的基盤の構築に貢献する。 | | | 0.40 | 講座の学生・院生の研究を指導した。大学院および学部担当科目を担当し、生態学や生物統計学に関する基礎知識の講義・演習などを行い、院生・学生の教育を行った。また、JSPSの頭脳循環プロジェクトにおける海外派遣研究員の指導を行い、若手研究者を支援した。 | | |
| 研究 | 0.40 | 研究論文の投稿・採択を目指す。学術雑誌の編集・査読をとおり、関連学術分野の発展に貢献する。また、大型研究資金の獲得を目指す。 | | | 0.40 | 複数の論文を国際雑誌に掲載させた。競争的資金(科研費)を3件(基盤A・基盤B・挑戦的萌芽)採択させ、新規のプロジェクトを立ち上げ、また、JSPSの頭脳循環プロジェクトの進捗に貢献した。 | | |
| 社会 貢献 | 0.10 | 沖縄県や環境省の事業(奄美・琉球の世界自然遺産登録)や環境行政に関連した検討委員として、その進展に貢献する。 | | | 0.05 | 琉球諸島の世界自然遺産登録に関する検討委員(環境省および沖縄県)を務め、地域の自然環境保全政策に貢献した。 | | |
| 管理 運営 | 0.25 | 所属部局における学務(教育委員会やその他委員会の活動など)を通して、大学の管理運営に貢献する。 | | | 0.15 | 熟生圏の併任教員として、付属研究室の教育・研究に貢献した。また、グローバル教育支援機構アドミッション委員として、地元高校に対する説明を行うなど、学部学科の学務に貢献した。 | | |
| | 0.00 | | | | 0.00 | | | |
| 計 | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | | |

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 栗原 晴子 | 所 属 | 理学部 海洋自然学科 | 職 名 | 助教 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成28年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成28年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.33 | 生物海洋学の基礎的知識の学習、理解、さらに学習意欲を促す授業の実施する。目的意識をしっかりと持ち、自律性、積極性および国際的意識を持つ学生の教育。3年次指導担当として、生物系の学生の指導全般を行う。研究室の円滑な運営し、学部学生／博士前期課程の学生の研究指導を実施する。 | | 0.29 | 3年次指導の担当をし、学生への大学生活や教育の指導全般を実施した。海洋環境学、基礎ゼミ、海洋環境科学特論、生物学ゼミナールI、生物学実験、進化生態学実習の講義を実施した。さらに留学生向けの授業としてIntroduction to Oceanography,およびSubtropical Biology in the Ryukyusを担当した。また修士学生2名、学部学生5名の研究指導を実施した。 | |
| 研究 | 0.40 | 国内／国際共同研究の実施すると共に、国際／国内学会での研究成果発表し、国際雑誌／国内雑誌へ論文を投稿する。その他外部資金を獲得する。 | | 0.47 | 10月から3月まで女性研究者研究専念制度に選考され、オーストラリアのAIMSやパラオ等で研究を実施した。その間国際誌に4本執筆し、現在査読中である。さらに共著論文4本が査読中、一本が受理されている。国際学会で一回招待講演、その他2回の国際学会及び2回国内学会で発表を行った。外部資金は昨年度に引き続き、CREST(分担)、JST-JICA(パラオ分担)、科研基盤B(代表)に加え、新たに科研基盤B国際(代表)の助成金を獲得し、国内外での共同研究を実施した。国際共同研究SCORのメンバーを務めた。 | |
| 社会 貢献 | 0.15 | 環境教育の普及活動の実施。ホームページやメディア等により、研究成果を社会へ情報発信する。学外審議会、学会関連の各種委員会としての責務のを果たすと共に、環境保全等の社会貢献活動を実施する。 | | 0.15 | 海洋学会沿岸環境委員及びサンゴ礁学会広報委員(ニュースレタの編集、HP管理など)を務めた。SCAR"Ocean Acidification action group"委員、海洋環境政策、海洋酸性化問題の解決策方法の検討委員を務めた。 | |
| 管理 運営 | 0.07 | 大学院学務担当、選挙管理委員、その他委員会等に関わり責務の実施その他会議への出席する。 | | 0.04 | 前期のみ大学院学務、理学部選挙管理委員、生物系選挙管理員に関わる業務を実施した。その他教授会、生物系会議等へ出席した。科研費アドバイザーを務めた。 | |
| 進路 指導 | 0.05 | 生物系の学生への就職活動に関わる情報の提供や進路相談、研究室に所属する学生の進路相談 | | 0.05 | 3年次への就職活動に関わる情報を提供、進路、就職、留学などの相談を実施した。所属研究室の学生の進路相談を実施した。 | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 広瀬 裕一 | 所 属 | | 理学部 海洋自然学科 | 職 名 | | 教授 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|--|---|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成28年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成28年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育・ 学生支援 | 0.30 | 担当する正規の授業(学部、大学院)を従来通り提供する。大学院生(博士前期課程)の教育では学年・進度に応じて論文作成や学会発表を目標に指導を進める。 大学院新入生のガイダンス資料を整備するとともに、履修・学位の要件・研究倫理について指導を行う。 担当する教職科目を通して、教職志望の学生について進路指導を行う。 | | | 0.25 | 担当する積の授業を予定通り提供した。ただし、博士後期課程の講義については履修希望者がなかったため開講しなかった。4月入学の大学院新入生ガイダンスを担当した。指導する大学院生2名が国際学会でのポスター発表を行い、必要な指導を行った。 | | |
| 研究 | 0.40 | 現在投稿準備中の論文計3件について受理を目指す。科研費を分担する他大学・機関との共同研究を進める。科研費の申請を行うとともに、他の競争的資金への応募も検討する。日本動物学会九州支部委員に加え、第87回日本動物学会大会の運営委員長を担当する。 | | | 0.50 | 国際誌に4報の学術論文を発表した。科研費を分担する他大学・機関との共同研究を進めた。第87回日本動物学会大会想定を超えるの参加者があり、大会は無事に成功裡に終わった。 | | |
| 社会貢献 | 0.10 | Invertebrate Biology誌、Frontiers in Marine Science誌のeditorial boardを担当する。 | | | 0.10 | 国際誌の査読5件を担当した。公益社団法人日本動物学会の理事に九州支部より選出され、学会の企画運営にも携わるようになった。韓国水産研究院主催のワークショップにおいて招待講演を行い、韓国の研究者・水産事業者にマボヤ被囊軟化の機構について研究の現状を紹介した。 | | |
| 管理運営 | 0.20 | 大学院(生物系)関連の学務を担当し、新入生ガイダンス、10月/3月修了生の審査・発表会等の運営を行う。理学部将来計画員等に加え、生物系SEMの機器管理を担当する。 | | | 0.15 | 大学院(生物系)関連の学務を計画通り分担した。将来計画委員会では定員削減対応について議論を行った。 | | |
| | 0.00 | | | | 0.00 | | | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | | |

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|--|----|
| 名 前 | | 池田 譲 | 所 属 | 理学部 海洋自然科学科 生物系 | 職 名 | 教授 |
| 領域 | 業務 ウエイト比 (予定) | 平成28年度 年度目標設定 | | 業務 ウエイト比 (実績) | 平成28年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.35 | 分かりやすい学部専門講義、受講者自らが考え議論する大学院専門講義を行う。日常的な実験、ゼミにおける論文講読を通じ、学部4年生、大学院生、ポスドクの研究指導を行う。また、学部生、大学院生およびポスドクの進路について、日常的に助言、サポートを行う。 | | 0.35 | 学部専門講義については、毎講義ごとの学生からの質問・感想等から概ね目標を達成したと判断できた。大学院専門講義では、参加者の活発な議論を引き出し、実りある内容とすることができた。学部4年生、大学院生、ポスドクの研究指導では、議論を日常的に重ね、学術的に評価し得る内容の研究を遂行させることができた。また、学部4年生、大学院生、ポスドクについて、国際学会、国内学会への参加を奨励し、成果発表の機会を設けた。さらに、ポスドクについては研究助成金への申請を積極的に勧め、支援した。 | |
| 研究 | 0.30 | 科学研究費補助金の助成対象となった研究課題、および「頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム」に関する研究課題を遂行する。 | | 0.30 | 科学研究費補助金の助成対象となった研究課題(2件)および担当研究者である推進プロジェクト、平成27年度に新たに採択された科学研究費補助金の研究課題(1件)を遂行し、成果を国際学会と国内学会にて発表した。また、平成27年9月に京都大学で開催された国際ワークショップAqua Vision 2016、同年11月に沖縄にて開催された第12回色素細胞シンポジウム、同年12月に京都大学で開催された第22回交通流と自己駆動粒子系のシンポジウムで招待講演を行った。また、平成27年12月に明治大学において、研究集会「比較動物学と現象数理学から考える『海の霊長類』の知の表現法」を組織委員として企画、開催した。さらに、研究成果を2本の論文として国際誌に、1本の総説として英文専門雑誌にそれぞれ発表した。また、平成26年発行の1本の英文論文が日本動物学会のZoological Science Award 論文賞を受賞した。 | |
| 社会 貢献 | 0.05 | 教員免許更新講習の講師を担当する。 | | 0.05 | 教員免許更新講習の講師として実りある講習を行った。さらに、沖縄県立工業高等専門学校とのインターンシップ学生1名、北海道大学大学院のインターンシップ学生1名をそれぞれ研究室に受け入れ、学究機会を提供した。また、生物系受験希望の高校生の見学を受け入れた。 | |
| 管理 運営 | 0.30 | 生物系主任、として生物系の管理運営に関する事柄に従事する。また、動物実験委員として動物実験に関する諸事に関わる。 | | 0.30 | 生物系主任として、生物系と理学部の管理運営に従事し、教育研究の円滑な遂行に努めた。この過程では、概算要求、戦略的教員再配分などの申請に関わり、発案、申請作業を進めた。さらに、動物実験委員として、動物実験の審査などの諸事に関わった。また、科研費アドバイザーに就任した。さらに、日本学術振興会「頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム」について、研究担当者としてプログラムの管理運営に関わった。国際交流として、済州大学との冬期学生交流プログラムに、受け入れ側として遂行に関わり、講師も務めた。また、第22回国際動物学会/第87回日本動物学会合同大会の運営委員として大会運営に務めた。 | |
| | 0.00 | | | 0.00 | | |
| 計 | 1.00 | ・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | 1.00 | ・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 竹村 明洋 | 所 属 | | 理学部海洋自然科学科 | 職 名 | | 教授 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|--|---|--|----|
| 領域 | 業務 ウエイト比 (予定) | 平成28年度 年度目標設定 | | | 業務 ウエイト比 (実績) | 平成28年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.30 | 共通教育科目(生命の科学など)及び学部専門科目(脊椎動物学など)を担当する。大学院科目(比較内分泌学特論など)を担当する。上記講義では、講義ごとに設定したメールアドレス等を用いて学生の意見・感想を取り上げる工夫を凝らす。研究所所属の学部学生の卒論指導を行い、研究成果の学会発表を奨励する。大学院博士前・後期の学生を指導し、研究成果を国際学術誌に投稿して論文採択を目指す。研究室に所属している大学院生全員が国際もしくは国内学会での発表を少なくとも一回行うようにする。 | | | 0.30 | 共通教育・学部科目として「生命の科学」、「比較内分泌学」、「基礎ゼミ」、「海洋生物生産学実習」などを、大学院講義として「比較内分泌学特論」、「Advanced Comparative Endocrinology」、「Reproductive Physiology」などを担当した。済州大学との学生交流の取りまとめ等を行った。大学院学生の研究成果を国際学術誌に投稿した。学生が筆頭発表者である口頭発表もしくはポスター発表は11回(うち、国際学会は7回)であった。年度目標はほぼ達成したと判断する。 | | |
| 研究 | 0.30 | 現在獲得している外部資金による研究を計画通り進め、サンゴ礁魚類の環境利用特性の一端を明らかにする。韓国やベトナムの研究者との国際共同研究を実施し、海洋環境に適応した魚の活動リズムを沖縄と比較する。一連の研究に関する研究論文の採択を目指す。重複申請が可能な科研費に応募して採択を目指す。 | | | 0.30 | 外部資金として新規に科研費(基盤研究B;海外学術調査)、産学官金共同研究スタートアップ事業を獲得した。また沖縄科学イノベーションシステム構築事業を継続した。本年度の外部資金の獲得は、直接経費で約1000万円であった。韓国やベトナムを訪問して共同研究を行った。基盤研究B(一般研究と特設分野研究)に応募した。年度目標は達成したと判断する。 | | |
| 社会 貢献 | 0.20 | 県内外の中学・高校の総合学習や教員免許講習講座に協力する。NPOや学会等の企画する実習や講演会に積極的に参画し、サンゴ礁生物環境の一般理解を深める。学会活動および学術雑誌の査読を通じて、関連分野の発展に貢献する。 | | | 0.20 | 修学旅行生(中高生)へのセミナーを行った。動物学会支部委員としての活動を行うとともに、本年度沖縄で行われた大会の実行委員として企画に参加した。昨年度から引き続き、複数の国際誌の編集に携わるとともに多数の雑誌の査読を行った。年度目標はほぼ達成したと判断する。 | | |
| 管理 運営 | 0.20 | 亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構長として本学の学際的な研究プログラムを推進する。また、副学部長(研究担当)として、理学部の管理運営に積極的に参加する。 | | | 0.20 | 亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構長として機構の管理運営を行った。研究推進会議企画員として本学の研究機獲得向上に向けたいくつかの施策を実施した。副学部長(研究担当)や理学部の各種委員会等を通して学部学科の管理運営に積極的に参加した。年度目標は達成したと判断する。 | | |
| | 0.00 | | | | 0.00 | | | |
| 計 | 1.00 | ・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | | 1.00 | ・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | | |

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 中村宗一 | 所 属 | | 理学部 海洋自然科学科 | 職 名 | | 教授 |
|-----------------|---------------------|---|-----|--|---------------------|---|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成28年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成28年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.30 | 大学院、学部、共通教育の授業を行う。短期留学プログラムでも講義をおこなう。 | | | 0.30 | 大学院、学部、共通教育の授業を行った。短期留学プログラムでも講義をおこなった。 | | |
| 研究 | 0.30 | 学会発表、論文投稿を目指す。植物のオルガネラ遺伝の研究を進める。 | | | 0.30 | 日本植物学会80回大会で2題を発表した。論文をPlant Morphologyに1本掲載された。 | | |
| 社会 貢献 | 0.10 | 教育免許更新講習授業を行う。 | | | 0.10 | 受講者数が定員以下であったため、開かれず。 | | |
| 管理 運営 | 0.20 | 会計係として関わり、系等の運営に協力する。 | | | 0.20 | 会計係の一員として関わり、系の運営に協力した。 | | |
| 学生 指導 | 0.10 | 学部生、院生の進路、学業、よろず相談につとめる | | | 0.10 | 学部生、院生の進路、学業等、よろず相談につとめた。 | | |
| 計 | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 | | |

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 中村 崇 | 所 属 | 理学部 海洋自然学科 | 職 名 | 准教授 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|--|-----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成28年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成28年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生支援 | 0.00 | 担当講義科目全般における内容充実を図る。担当実習を、瀬底実験施設で実施し、生物生産学実習VIIIと連携しつつサンゴ礁生態系について学生が体験的・体系的に理解できるよう目指す。留学生向け講義(Introduction to Oceanography、短期プログラム、APIセミナー等)を担当する。また、「総合環境学概論」を分担し、副専攻カリキュラムへの貢献を目指す。4名の卒研生についての研究・進路指導および、2名の修士学生、1名の博士論文学生についての研究指導を担当する。 | | 0.45 | 講義・実習担当科目では、サンゴ礁の生物・生態系を体系的かつ体験的に理解できるような実施ができたと言える。本年度は留学生向け講義(Introduction to Oceanography、短期プログラム、他大学向けAPIセミナー等)に加え、副専攻科目である「総合環境学概論」を分担した。基礎ゼミでの1年次進路指導に加え、7名の卒業研究、2名の修士研究、1名の博士研究を指導し、大学院生の学会ポスター賞受賞等を支援した。 | |
| 研究 | 0.00 | サンゴをはじめとした骨格形成メカニズム解明の研究、持続的サンゴ礁島嶼系の保全を進めるための社会形成プロジェクトに関する研究を進める(科研B分担)。また、2012年度からの、石西礁湖での個体群生態学および繁殖生態学的なサンゴモニタリングを継続する(環境省)。SATREPSプロジェクト(JST/JICA)代表者として、サンゴ礁島嶼生態系の自然・社会科学双方からのパラオにおける研究推進を進める。成果については順次論文文化および学会等での発表を目指す。 | | 0.35 | サンゴ礁生物を対象とした、骨格形成機構の解明研究を進め(科研A分担/SATREPS)、成果についての論文文化をおこなった。また、野外潜水調査をおこない、与論島や、石西礁湖での個体群生態学的なモニタリング調査(環境省/東京久栄)を実施した。SATREPSプロジェクト(JST/JICA)代表者として、パラオにおけるサンゴ群集モニタリングを中心とした調査研究を進めつつ、パラオでの第4回JCC会議・シンポジウムを実施し、3月には観光業による環境負荷を低減させる新規プロジェクトのシンポジウムをパラオで開催した。成果については学会発表・論文文化を進めることができた。 | |
| 社会貢献 | 0.00 | 日本サンゴ礁学会評議員、沖縄生物学会庶務幹事として学会運営に関わる。一般向けには、国内での公開講座・講演会・レクチャー・セミナー開催およびパラオ国でのシンポジウム・ワークショップ開催に積極的に関わり、本学の研究成果についての社会還元・啓蒙促進につとめる。 | | 0.10 | 日本サンゴ礁学会評議員・沖縄生物学会庶務幹事として学会運営に関わった。一般向けには、国内での公開講座やパラオ国でのシンポジウムを実施し、研究成果の社会還元を促進した。また、JICA国際研修の講師をつとめた。沖縄県環境部会の委員として、県の21世紀ビジョン改訂案に対する助言等をおこなった。 | |
| 管理運営 | 0.00 | 学部学務WGメンバーとして学業環境の充実を図る。学部の特別プログラム運営委員として、国際交流推進につとめる。また、自己評価委員として、次期認証評価に関する情報取りまとめ等にかかわる。 | | 0.10 | 生物系学務WGメンバーとして学部学務の実施に関わりつつ、留学生特別プログラム運営委員会委員、教員養成運営協議会委員などを務めた。 | |
| | 0.00 | | | 0.00 | | |
| 計 | 0.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 立原一憲 | 所 属 | | 理学部 海洋自然科学科 | 職 名 | | 准教授 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|---|--|--|-----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成28年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成28年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.30 | 講義の理解度を把握するため、毎回理解度チェック用紙を配布し、問題点があれば、次回の講義で補足説明を実施する。実習では、大学外の機関と連携し、実習内容が社会でどのように活用されているかを体感させるよう試みる。大学院教育に関しては、各自の研究目標を明確に設定し、論文発表を促す。毎週1回研究室のミーティングを行い、在籍学生の学業の進捗状況を報告させる。卒業、修了予定者の進路に関して積極的に相談に乗り、具体的なアドバイスを行うとともに、必要に応じて推薦状を作成する。 | | | 0.30 | 担当する生物学概論で、各回の授業終了時に質問カードに講義内容に関する疑問を記入させ、次回の講義開始時に回答した。海洋生物生産学実習Ⅱで、沖縄県栽培漁業センターを見学させ、実習の内容が社会でどのように応用されているのかを学ばせた。大学院在籍者には、学会参加を前提とした研究計画を立てさせ、各自の目標に沿って研究を進めさせた。毎週月曜日に研究室所属の全学生から前週の進捗状況を報告させ、次週の計画を相談した。卒業予定者の就職相談を受け、必要に応じて推薦状を作成した。今年は修士修了予定の5名のうち1名が公務員、3名が民間企業に合格した。このうち3名は大学の専門を背景とした職種である。 | | |
| 研究 | 0.30 | 今年度は、4報の論文の印刷もしくは受理を目標とする。少なくとも国際学会1、国内学会6の学会発表を行う。現在進めている琉球列島産魚類の生活史の研究に研鑽する。各種学会の役員を引き受け、依頼された論文の査読を積極的に行う。複数の外部資金に応募し、研究費の獲得に努める。 | | | 0.30 | 今年度は、査読付き論文を7報(計画の175%)印刷した。国際学会2、国内学会8の口頭(ポスター)発表(計画の167%)を行った。魚類学会などの評議員を務めた。また、科研基盤C、河川整備基金、美ら島財団研究助成金などを獲得した。 | | |
| 社会 貢献 | 0.30 | 外部の委員を積極的に引き受け、各種委員会への出席や民間企業へのアドバイスは、少なくとも各月4回程度、年間52回程度を目標とする。沖縄の自然保護や環境教育に関する啓発活動を行う。 | | | 0.30 | 県や国の委員と沖縄県内外の企業の相談を積極的に行った。今年度は、環境省海洋版RDL、沖縄県版RDB、宮古島市史が重なり、1月5日現在、各種会議と相談回数は82回に及んでいる(計画の228%)。辺土名高校の特設授業を行い、奄美大島住用村と宇検村で小学生対象の自然説明会を実施した。5月14日に美ら島財団主催のベトナムの公務員に対する水産資源の講義を行った。 | | |
| 管理 運営 | 0.10 | 担当する学内、系内の委員をこなす。大学院学務として9月と3月に滞りなく修了生を送り出せるよう努める。 | | | 0.10 | 大学院学務として、9月と3月の博士前期、博士後期の学生の修了をサポートした。生涯学習研究センター運営委員として会議に出席した。 | | |
| | 0.00 | | | | 0.00 | | | |
| 計 | 1.00 | | | | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | | | |